

くらしを支える庄川のダム・発電所

富山県 南砺市立上平小学校 松田 啓宏

はじめに：庄川は本校の校区を南北に貫くように流れる川です。本校に通う子どもたちは、毎日庄川をながめながら生活しています。本校は、総合的な学習の時間に「ふるさと」を教材に学習を行っており、4年生では「水を活かす人たちについて知ろう」をテーマに設定し、庄川について調べています。

作品について：庄川をテーマに学習を進める第一歩として、地図帳を使って庄川をとらえ直しました。庄川は、岐阜県を源流とし、富山湾に流れ込む長い川であること、流域の平野部には田、工場、チューリップの産地などがありさまざまな産業に利用されていることなど、改めて気づくことが多くありました。なかでも校区を含む山間部には発電所が多いことに疑問を感じました。そして、「庄川を利用してどのように発電しているのか」「人口が少ない地域なのになぜ発電所が多いのか」などを調べることにしました。

関西電力株式会社北陸支社の方々を学校に招いたり、校区にある発電所を訪れたりする活動のなかで、水力発電のしくみや庄川に発電所が多い理由を教えてくださいました。急流で水量豊かな庄川は水力発電に適しており、ダムによって発電に必要な水を確保していることがわかりました。さらに、校区内につく

られた電気のほとんどが関西地方に送電され、関西の人々の生活を支えていることに驚きました。ほかにも校区内には富山県が管理する境川ダムがあり、その水は発電以外に、農業用水や工業用水など、県西部の産業や生活を支えるために利用されていることも知りました。

自分たちの暮らしだけでなく、さまざまな地域の人々の暮らしを支えている庄川に誇りを感じ、多くの人々に庄川のダムや発電所の役割を知ってもらおうと、地図を作成しました。

おわりに：作成した地図は、「とやまみんなの地図作品展」に出品しました。幸い、審査員の方々に優秀作品の一つとして評価していただきました。受賞式では、審査員の先生より「等高線で高低差を表現することで、さらに見えてくることがある」「多くの地域の暮らしを支えていることが一目でわかる地図を加えると庄川のよさがさらに伝わる」とアドバイスをいただきました。子どもたちは、地図の奥深さや魅力をよりいっそう感じることができました。

子どもたちには、この経験を今後の学習活動に生かしてくれることを期待しています。